

# 中南米諸国に対する地震工学分野の国際貢献(1)



国立研究開発法人 建築研究所 国際地震工学センター 主任研究員 諏訪田晴彦

## 背景・目的

- ◆ 中南米諸国は地震多発地域
- ◆ 地震工学(耐震)に関する指導的人材の育成が急務
- ◆ 多くの中南米諸国では、当該分野の人材育成に関するノウハウが不足
- ◆ 中南米諸国に対する技術協力や新たな人材育成プログラムの創設等により中南米地域での地震被害の軽減を目指す

中南米で発生したマグニチュード7.0以上の地震発生国(2001~2017年)

2001年	エルサルバドル、ペルー
2003年	メキシコ
2007年	ペルー
2010年	ハイチ、チリ
2012年	メキシコ、チリ、コスタリカ、 コロンビア、グアテマラ
2013年	ペルー
2014年	チリ、メキシコ
2015年	チリ、ペルー
2016年	エクアドル、チリ
2017年	メキシコ

## エルサルバドル技術協力プロジェクトへの参画

2001年の地震でエルサルバドル全土の住宅総数の約20%に当たる約27万戸が被害

エルサルバドル政府は日本政府に技術協力を要請

JICAの技術協力プロジェクト「TAISHIN」が実施され、建築研究所から多くの研究者が参画

- ◆ 耐震普及住宅に関するマニュアルおよび国の技術基準を整備



TAISHINプロジェクトで整備されたマニュアル



## 中南米諸国に向けた人材育成プログラムの創設

多くの中南米諸国から地震工学(耐震)分野における即戦力となる指導的人材の育成のため、母国語であるスペイン語で受講できる比較的短期間の人材育成プログラム(研修)の創設が強く要望された

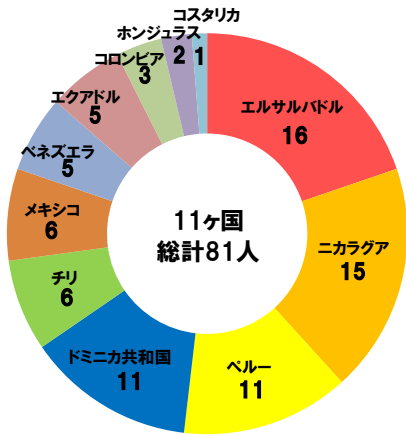
建築研究所、JICAおよびTAISHINプロジェクトにより技術水準が向上したエルサルバドルが連携し、2014年に新たな人材育成プログラム「中南米建物耐震技術の向上・普及コース」を創設(2ヶ月の短期コース、使用言語はスペイン語)

# 中南米諸国に対する地震工学分野の国際貢献(2)



国立研究開発法人 建築研究所 国際地震工学センター 主任研究員 諏訪田晴彦

## 中南米建物耐震技術の向上・普及コースの概要



2014年度 4ヶ国 14名  
2015年度 6ヶ国 16名  
2016年度 8ヶ国 16名  
**第1期 合計 9ヶ国 延べ46名**  
2017年度 9ヶ国 23名※1  
2018年度 8ヶ国 12名※2  
※1 構造技術者14名、建築担当行政官9名  
※2 構造技術者10名、建築担当行政官2名

### 研修の対象所属機関

#### 技術者コース

- 耐震建築・技術普及を担当する政府機関および同分野の大学・技術者養成機関

#### 行政官コース

- 国家中央省庁または地方自治体の建築行政担当機関

### 研修生に求める主な資格要件

#### 技術者コース

- 地震工学分野で5年以上の実務経験
- 耐震建築技術の研究あるいは同分野の普及・技術者養成において指導的な役割を現在担っている、もしくは将来担う見込み

#### 行政官コース

- 建築行政における予算、許認可、営繕の分野において5年以上の実務経験
- 耐震工学分野の基礎的な知識

## 研修風景および研修成果



講義後(岡田恒男東京大学名誉教授と)



研修旅行(野島断層保存館:兵庫県)



構造実験(国立エルサルバドル大学にて)

### ◆ 成果例 : ドミニカ共和国における耐震基準の見直し

ドミニカ共和国では、中南米建物耐震技術の向上・普及コースに参加した研修員の働きかけにより、自国の耐震基準の見直し作業に着手(2016年～)